

公表 所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所さくら(重心多機能 放デイサービス)				公表日	令和 8 年 5 月 27 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	安全で快適に過ごせるよう配置にも配慮している 車椅子と臥床者が混在しても余裕のあるスペースを確保できている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	配置基準を満たし配置しています	新規採用職員の確保が進まず、引き続き人員確保に努めていく	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		空調等にも配慮し利用者が快適に過ごせるように配置している バリアフリー化、ワンフロアで死角のない生活間としている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清潔と整理整頓を心がけている 調光室温湿度にも配慮している 食事、午睡、活動に合わせてパターションで区分けを行い快適かつ安全な空間を心掛けている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・パターションを用いて、こどものプライバシーが守られるようにしている 不審者対応時は鍵付き部屋を利用できるようにシミュレーションしている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	職員間の情報共有を徹底し意見の出しやすい雰囲気作りにも努めている 常に情報共有を行い支援目的を明確にし業務に当たっている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	モニタリングや日々顔合わせる時に意向等を聞く場面がある 職員一人一人もできる限り保護者と会話する機会をもち意向の把握に努めている	モニタリングや担当者会議などでもこまめにニーズを聞き取るようにする。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	複数人と個別で話せる時に意見等聞けるよう雰囲気にも気を付けている。 一人一人の視点も大事にし得意な事を発揮できるようにしている。 支援前後のミーティングにて困り事、振り返りを実施	日常的な意見交換の活性化に努める	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	外部評価は実施していないが、法人監査で評価指導を受け、苦情解決には第3者委員会を設置している	外部評価の実施について検討が必要 他事業所での取組みを伺える機会があれば、その情報をもとに改善に繋げていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		確保されている。法人研修外部研修などについて共有している	互いの学びを共有する環境づくりに努める	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		出来るだけ丁寧に聞き取りし、見極めながら作成するようにしている 基本的には半年に1回、必要に応じて評価見直しを行い作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		ミーティングや支援会議等で職員で意見を出し合って作成している		

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画がいつでもみれるよう療育記録にも貼っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		定型化しやすい為小さな変化に応じた支援内容になるよう工夫している 具体的な支援内容を設定する事で評価もしやすい計画を目指している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		職員でアイデアを持ち寄っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		発達状況やブームに合わせて、同じ活動名でも支援方法を変化させたりしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		休業日に集団で朝の会や散歩を行っている 他児を意識できるような声掛けを心がけています 機能訓練やその他専門職と連携を図りバランスよく提供できるようにしている。	体調管理に困難さを抱える児が多い為、個別活動が主体になる傾向があるため、集団活動の工夫にも取り組む必要がある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティング行い確認している 臨機応変に対応できるよう声掛けを行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	6	1	気づいたことはその場で、もしくは振り返りの中で確認や情報共有を行っている 看護療育記録も当日で記入しながら職員全体で振り返り確認を行っている	気づきを共有しているが、職員一人一人がどう受け止めているかの深掘りが必要
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		療育記録、看護記録、機能訓練について記録し共有している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		適宜計画について確認し必要時は見直しを行っている	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		4つの基本活動を心がけ取り組んでいる	マンネリ化しないように創意工夫が必要	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		本人の意思表出能力に応じた選択ができるよう工夫している		
関係機関や保	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		主に児発言が参加しているが、看護師も同席する事もある	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		医療機関主催の会議、退院前カンファレンス、行政による事業所連絡会や医療的ケアに関する会議などに参加し、連携を図っている。	関係機関との情報共有を密にし、支援の方向性の一致を図る
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校に迎えの際に情報共有している 学校での出来事で保護者に連絡必要な時は、直接学校から連絡するようお願いしている	関係機関との情報共有を密にし、支援の方向性の一致を図る
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		児発と放課後等デイの多機能事業所であり移行は容易である。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		モニタリングやカンファレンス等で共有する事が多いがそれ以外の場面では、保護者に同意を得たうえでやっている	

護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	支援センターからペアレントプログラムの案内をいただいている。医療型障害児入所施設併設のため当センター専門職からアドバイスを受ける事が多い	児童発達支援センターや発達障害者支援センターの研修機会があれば参加していく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		重症心身が障害児の合併症に配慮し感染リスクを考慮しているため計画が難しい状況。感染防止対策を最優先課題としたうえで機会がもてるよう検討に努める
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	子ども部会の取り組みの1つで障害児通所事業所連絡会が定期的で開催されており、その連絡会に参加しています。	協議会での取り組みについて、深く知る機会がないので、今後、事業所と関連する内容を知ってもらえる時間を作っていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳やお迎え時など、細目に保護者との情報共有、共通理解に努めている	保護者が気兼ねなく表出できるよう、傾聴を重視した相談環境を整える
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1 (無回答1)	家族が参加できる研修があれば案内を行っている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		モニタリングや日々のお迎え時などで保護者の思いを伺い、希望や意思を尊重しながら計画を作成している	保護者の要望に対して迅速かつ柔軟に応じる体制を整え、状況の変化に応じたタイムリーな支援の提供に努める
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書を示しながら説明し同意を得て、また署名と押印をいただいている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		相談や悩み等に応じて、担当の相談員や専門職につなぐこともある	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	6	常に利用児がいる状況で、時間や場所の調整が難しく保護者同士の交流やきょうだい児の交流が設けられていない	必要な情報は共有できるように努めご希望を伺いながら検討していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情箱を設置し苦情受付担当者や解決責任者について記載している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月案を通して安全計画の周知につながるよう記載している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人記録は鍵付き書庫にて保管しているPC、デジカメは持ち出し禁止としている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		保護者への連絡事を口頭だけではなく、必要時はメモや電話等で伝えるよう配慮している こどもへは視覚や聴覚からのアプローチを工夫	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	コロナ禍以降、法人行事への招待は実施できていない	今後、感染防止対策を最優先課題としたうえで交流できる機会をもてるように努める	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		契約時、各マニュアルも提示している職員にも各自役割を伝えている 法人の医療安全管理委員会や感染防止対策委員会に参加し、事業所での訓練も実施している	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCP策定とともに、訓練も実施している	訓練がマンネリ化しないよう工夫が必要

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	契約時に保護者から聞き取りを行い、看護師が病態とともに周知し、全職員にも共有している。 定期受診等でも服薬変わらないか確認を行っている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	経口摂取の方は、法人外来にて食事について医師の指示で食事箋を作成している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	安全管理については職員全員が常時意識してもらおうよう声掛けし支援を行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	契約時に、周知いただけるよう丁寧に説明を行い、防災バック（備品）を任意で準備いただき預かっている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	医療安全委員会にて、法人内のインシデントアクシデントレポートを共有	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	定期的な職員研修の実施、また世の中で起きた虐待に関する事件についても共通認識を図り虐待に関する意識を高めるよう努めている	虐待防止に関する外部研修に参加する機会がなかったので、外部での研修情報へのアンテナを広げていく
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	別添の個別支援計画にて車椅子や補装具等の利用時間、場面等を説明し署名いただいている	